

科目名	総合演習Ⅱ General Exercise II	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 2	開講区分	(通年科目)前期
【授業の学習内容】 前期の総合演習Ⅱでは解剖学を中心とした国家試験該当科目の問題に取り組む。 総合的な基礎知識を学習し、早期より国家試験の出題形式である4択問題にふれることで、3年後の試験に向けた準備を行う。 また、学習の振り返り(時間、方法、内容、結果、自己評価、結果に基づく改善箇所を考える)を行うことは、個々に合った学習方法の基盤作りとなる。							
【到達目標】 《目標①》主に解剖学において国家試験レベルの問題を読み、出題者の意図を正しく理解できる。 《目標②》問題の正しい答えを選択することができ、誤っている選択肢の理由を説明できる(8割以上)。 《目標③》授業を通じて学習方法の基盤を作り、国家試験合格に繋がる学習を行うことができる。							

授業計画・内容	
1回目	解剖学の習熟度テストを行う。
2回目	解剖学(骨格系①):関節の構成、上肢下肢の骨格、頭蓋骨の構成の復習を行う。
3回目	解剖学(骨格系②):関節の構成、上肢下肢の骨格、頭蓋骨の構成の復習を行う。
4回目	解剖学(骨格系③):関節の構成、上肢下肢の骨格、頭蓋骨の構成の復習を行う。
5回目	解剖学(骨格系④):関節の構成、上肢下肢の骨格、頭蓋骨の構成の復習を行う。
6回目	解剖学(筋系①):頭頸部の筋の復習を行う。
7回目	解剖学(筋系②):頭頸部の筋の復習を行う。
8回目	解剖学(筋系③):上肢の筋の復習を行う。
9回目	解剖学(筋系④):上肢の筋の復習を行う。
10回目	解剖学(筋系⑤):下肢の筋の復習を行う。
11回目	解剖学(循環系①):心臓・胎児循環の復習を行う。
12回目	解剖学(循環系②):上下肢の動静脈の復習を行う。
13回目	解剖学(循環系③):動静脈・リンパの復習を行う。
14回目	解剖学:人体の構成の復習を行う。
15回目	1回目～14回目までの要点を理解したうえで、国家試験の過去問題を解く。
準備学習 時間外学 習	授業の前に各回で4択問題(10問前後)のテストを行うので、予習をしておいてください。 4択問題解答後、解答解説の作成を行いますので、授業の中で作成した解答解説をもとに、それぞれの要点を復習もしておいてください。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生への メッセージ	解剖生理学は経絡経穴概論、臨床医学各論、東洋医学臨床論といった科目にもつながる重要な科目です。単なる1年次の復習という位置づけだけでなく他の関連する科目とのつながりも意識しながら勉強していくと、現在学んでいる授業の理解も深まります。 授業の前の予習・授業後の復習が重要な科目です。3年生になる前に、ここでしっかり基礎固めを行いましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 教科書 河野邦雄他著 解剖学 第2版 医歯薬出版株式会社 内田さえ他著 生理学 第3版 医師薬出版株式会社	

科目名 (英)	総合演習Ⅱ General Exercise II	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 2	開講区分	(通年科目)後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

後期の総合演習Ⅱでは授業の進行に合わせ、解剖学、生理学を中心とした国家試験該当科目を復習し、総合的な基礎知識を学習する。問題を解くだけでなく、教科書を使用し調べ学習を行うことで理解力を高め、3年後の国家試験に対応する学力を身に付ける。

【到達目標】

《目標①》主に解剖学、生理学において国家試験レベルの問題を読み、出題者の意図を正しく理解できる。
《目標②》問題の正しい答えを選択することができ、誤っている選択肢の理由を説明できる(8割以上)
《目標③》授業を通じて学習方法の基盤を作り、国家試験合格に繋がる学習を行うことができる。

授業計画・内容	
16回目	生理学の習熟度テストを行う。
17回目	生理学(生理学の基礎①・循環①):細胞の構造と機能・循環(血液)の復習を行う。
18回目	生理学(循環②・呼吸):循環(心臓)・呼吸の復習を行う。
19回目	生理学(消化と吸収):消化と吸収の復習を行う。
20回目	生理学(代謝):代謝の復習を行う。
21回目	生理学(体温):体温調節の復習を行う。
22回目	生理学(排泄①):排泄(腎臓の働き・尿生成・体液調節)の復習を行う。
23回目	生理学(排泄②・内分泌):排泄(蓄尿と排尿)・内分泌の復習を行う。
24回目	生理学(生殖・成長と老化):生殖・成長と老化の復習を行う。
25回目	生理学(神経①):神経(中枢神経系)の復習を行う。
26回目	生理学(神経②):神経(自律神経系)の復習を行う。
27回目	生理学(筋と運動):筋と運動の復習を行う。
28回目	生理学(感覚):感覚の復習を行う。
29回目	生理学:(生体の防御):免疫の復習を行う。
30回目	1回目～14回目までの要点を理解したうえで、国家試験の過去問題を解く。
準備学習 時間外学 習	授業の前に各回で4択問題(10問前後)のテストを行うので、予習をしておいてください。 4択問題解答後、解答解説の作成を行いますので、授業の中で作成した解答解説をもとに、それぞれの要点を復習もしておいてください。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生への メッセージ	解剖生理学は経絡経穴概論、臨床医学各論、東洋医学臨床論といった科目にもつながる重要な科目です。単なる1年次の復習という位置づけだけでなく他の関連する科目とのつながりも意識しながら勉強していくと、現在学んでいる授業の理解も深まります。 授業の前の予習・授業後の復習が重要な科目です。3年生になる前に、ここでしっかり基礎固めを行いましょ。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書 河野邦雄他著 解剖学 第2版 医歯薬出版株式会社 内田さえ他著 生理学 第3版 医師薬出版株式会社	